

2025年3月

# ファースト イーグル インベストメント マネジメント社に聞く 知っておいて頂きたい たった③つの大事なコト

大事なコト ① 富裕層向けの資産運用手法を皆様のお手元に

大事なコト ② 中長期の成長の鍵は損失回避への強いこだわり

大事なコト ③ 金(ゴールド)でさらに守りを固める



ファースト イーグル インベストメント マネジメント社の投資スペシャリスト、ヤン・ヴォーマー氏に当ファンドに関して、皆様にぜひ知っておいていただきたいポイントについて伺いました。

## ユニークな資産運用会社ファースト・イーグル・インベストメンツ

他の会社と何が違い、何がユニークなのかを教えてください。

今回は私たちファースト イーグル インベストメント マネジメント(以下FE社)についてご説明させていただく機会を頂き、大変光栄に思っております。よろしくお願いたします。

まず、FE社は「伝統的」な資産運用会社ではありません。多くの資産運用会社は、ベンチマークを上回ることを目指して商品を提供しますが、ファミリーオフィス(富裕層を対象とした資産管理会社)をルーツに持つ私どものビジネスは、**投資家の経済力を長期的に維持することを使命**としています。



ファースト イーグル  
インベストメント マネジメント  
投資スペシャリスト ヤン・ヴォーマー氏

そのため私たちの投資哲学では**絶対リターンを重視**しています。**市場の動向に左右されず、一定の利益を上げることを目指す絶対リターンこそが、資本価値を長期的に守るために必要**であると考えているのです。そこで私たちは、資産運用における2つの大きなリスクである、

- 「**資産の回復不能な損失**」
- 「**インフレーション**」(による資産の価値下落)

を避けることを強く意識しているのです。

また私たちFE社員自身も当戦略に資金を入れ、顧客との利害を強く一致させていることも、成功のための重要な鍵であると考えています。

### Check

- 投資家の経済力を長期的に維持することが使命
- 2大リスク「資産喪失」と「インフレ」の回避が重要

【ご注意】上記はファースト・イーグル・インベストメンツのグローバル・バリューストラテジーの運用チームの投資哲学と過去の実績を示したものであり、日興レジェンド・イーグル・ファンドの将来の運用成果等を示唆または保証するものではないことに十分にご注意ください。また、グローバル・バリューストラテジーはファンドが主要投資対象とするファースト・イーグル・グローバル・バリュースター・ファンド(以下、マスター・ファンド)と運用チーム、運用哲学は同一ですが、マスター・ファンドでは金現物に投資しないなど銘柄選定過程の一部や費用が異なります。

## FE社には過去、ジョージ・ソロス氏とジム・ロジャース氏も所属されていたそうですね

はい、のちにウォーレン・バフェット氏と共に世界三大投資家と呼ばれる両者は当社で働いていました。

前述の通り、FE社は伝統的な資産運用会社とは一線を画した存在です。約160年前、ビールや陶器など異業種で成功を収めたドイツの一族により設立された点からして、非常にユニークですよ。

当初は一族のファミリーオフィスとして設立し、**財産を次の世代のために管理し、守り、成長させる仕組み**を作りました。そして、その仕組みは現在に至るまで脈々と続いており、**当ファンドにもそのDNAが継承**されているのです。

一族は1930年代に米国に移り、1960年代には最初のファンド「ファースト・イーグルN.Y.ファンド」を立ち上げました。このファンドは一族のヘン

リー・アンホールドが管理し、彼の運用哲学である**「大きな損をしないこと」「常に顧客の利益を最優先に考えること」**を強く反映していました。これは今なおFE社の資産運用の基本理念であり、ご投資される皆様の成功への道筋となっています。

当時、FE社で働いていた若き日のジョージ・ソロス氏とジム・ロジャース氏もその哲学に触れ、学び、偉大な投資家としての基盤を形成するための、貴重な教訓を得たのではないかと想像されます。



## 損失回避こそ成長の土台！投資哲学の中心にある「バリュー投資」

当ファンドの戦略における最大の特徴について教えてください。

私たちの投資アイデアは2つの重要な要素である、

**①質の高いビジネスと②バリュー投資(本質的な価値に対し割安な価格)**に焦点を当てています。

**①質の高いビジネス** ▶ 過去、約半世紀にわたる成功と失敗の経験から、**常に時代に必要とされ、圧倒的な市場シェアを有し、安定的成長が見込まれる企業などに着目し**(右表)、投資すべき/避けるべきビジネスを特定してきました。それをもとに私たち独自の企業データベースを構築しています。

**②バリュー投資** ▶ 一般的には株価収益率(PER)や株価純資産倍率(PBR)などの指標が、市場平均や過去平均より低いことを判断基準とする投資だと認識されるケースが多いと思います。一方、私たちの定義では、**バリュー投資は、企業の価値(本源的価値)を厳密に測定し、株価(市場の評価)がその価値に対して十分に割安である場合に投資し、**

### 【ファンドの着目するポイントと企業の例】

- ▶ 真似のできないビジネスモデル  
例: マイクロソフト - Windowsによる囲い込み戦略
- ▶ 他の追随を許さないブランド力  
例: アメリカン・エキスプレス - 圧倒的な知名度
- ▶ 他の追随を許さない技術力  
例: ファナック - ロボット技術における独自のノウハウ
- ▶ 揺るぎない価値を持つ資産  
例: エクソンモービル - 世界最大級の石油ガス会社

**株価が「本源的価値」を上回った時に売却**することです。これらにより、リスクを抑えつつ安定したリターンの追求が可能になると考えています。

### Check

- 「質の高さ」と「本質的な価値」に着目
- 真の企業価値算出に努める独自の「バリュー投資」

上記はいかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また将来のファンドへの実質的な組入を保証するものではありません。資金動向、市況動向の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。

**【ご注意】** 上記はファースト・イーグル・インベストメントズのグローバル・バリュー戦略の運用チームの投資哲学と過去の実績を示したものであり、日興レジェンド・イーグル・ファンドの将来の運用成果等を示唆または保証するものではないことに十分にご注意ください。また、グローバル・バリュー戦略はファンドが主要投資対象とするファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド(以下、マスター・ファンド)と運用チーム、運用哲学は同一ですが、マスター・ファンドでは金現物に投資しないなど銘柄選定過程の一部や費用が異なっています。



## 過去の失敗と成功から得た投資アイデアの一例 ～航空産業～

航空産業には2つのキープレイヤー、航空会社と空港があります。そのうち航空会社は、非常に高リスクのビジネスだと考えています。競争環境が厳しく(世界には多数の航空会社が存在)、またいくつかの重大なリスクが存在するからです。

ひとつはパイロットに関するリスクで、ストライキが起これば飛行機は飛びません。このように特定の人間に依存する産業は稀です。次は信用リスクで、仮に複数の墜落事故が発生すると、不安を感じさせる航空会社から顧客が離れるのは非常に早く、会社は倒産危機に直面します。最後は航空会社のコスト構造の大部分を占める燃料です。燃料価格は非常に変動が大きく、コスト管理を怠ると瞬く間に資金を失い、利益率も低下します。

一方、空港は航空会社とは正反対の独占事業で

あり参入障壁も著しく高いです。羽田空港に対抗するために、目の前に別の空港を開設したい、ということは不可能ですよね。また、仮にANA(全日空)やJAL(日本航空)が事業撤退したとしても、羽田空港に影響はありません。発着枠を他の航空会社に振り分ければよいだけなのです。

つまり、空港は独占的に使用料を徴収するビジネスなのです。これは価格決定力が高く、競争も少なく、安定しており、非常に魅力的なビジネスモデルと言えます。



(イメージ)

## 非常に興味深い「バリュー投資」ですが、なぜ運用上効果的であると考えのでしょうか？

「バリュー投資」とは簡単に言うと、**長期にわたって資本の損失リスクを抑制できるポートフォリオを構築すること**です。当戦略の立案者、ジャン・マリ・エベヤール氏は、バリュー投資の父として知られる著名投資家のウォーレン・バフェット氏やベンジャミン・グレアム氏の教えに強く影響を受け、**市場の未来を予想することはほぼ不可能である**と考え、多くの投資家と行動を共にするのではなく、彼らの行動を利用することで、収益を上げることが追求しました(これを「賢明な投資家」と呼びます)。

多くの投資家は株価の動きに過剰に一喜一憂するように、**短期的な感情により投資行動が左右される傾向**があります。つまり市場を短期で見ると、まるで人気コンテストのように、一見、最も美しく、魅力的に見える株式が勝利すると言えます。

\*マグニフィセント・セブン: 米国株式市場を代表するテクノロジー企業7社 (Apple, Microsoft, NVIDIA, Alphabet(Google), Amazon, Meta(Facebook), Tesla)の総称

上記はいかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また将来のファンドへの実質的な組入を保証するものではありません。資金動向、市況動向の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。

一方、長期的にはファンダメンタルズ、つまり売上高や利益などの業績、資産・負債などの財務状況のような、**企業の経済活動状況を示す基礎的要因が大きく影響**します。**最も多くの現金と価値を生み出す企業が、最終的には勝利する**のです。

最近の例ですと、多くの投資家のポートフォリオでは意図的、または無意識にM7\*の比率が増加している状況ですが、私たちのバリュー投資においては、それら市場の人気銘柄の価格が崩れた場合にも損失が限定的となるように設計されています。



**【ご注意】**上記はファースト・イーグル・インベストメンツのグローバル・バリュー戦略の運用チームの投資哲学と過去の実績を示したものであり、日興レジェンド・イーグル・ファンドの将来の運用成果等を示唆または保証するものではないことに十分にご注意ください。また、グローバル・バリュー戦略はファンドが主要投資対象とするファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド(以下、マスター・ファンド)と運用チーム、運用哲学は同一ですが、マスター・ファンドでは金現物に投資しないなど銘柄選定過程の一部や費用が異なっています。

経済行動学によると、多くの投資家は弱気の時には安い価格での売却をためらわず、また強気の時に高い価格で買ったがる傾向があります。

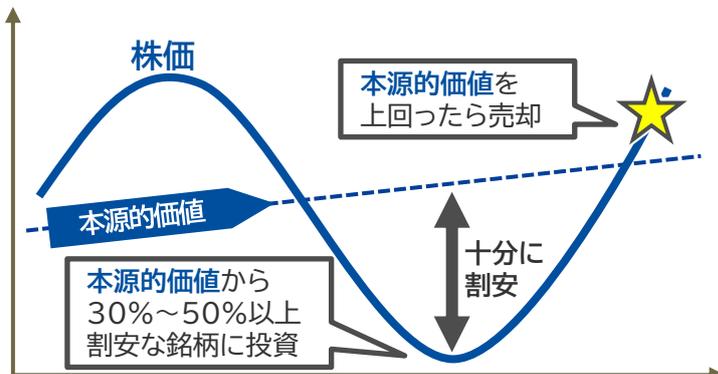
一方で「賢明な投資家」は株式を安く買い、高く売れるように、**事業の真の価値を理解するため、詳細な分析に多くの時間を掛けます**。多くの投資家が、国やセクターなど市場のテーマに対して弱気になった時、「賢明な投資家」は市場のゆがみに着目し、特定の株式が誤った理由で売られていないか、真に安い(割安な)状態なのかを検証します。

私たちが「本源的価値」と呼ぶ、企業の本質的な価値を、その企業の株価が大きく下回っている時、株価には「割引」が生じており、それを私たちは「安全マージン(余地)」と呼びます。これは、将来の予測が難しい不確実な世界において、**市場ショックなどが発生した場合に起きうる、更なる資本減損のリスクに対する防御力**となり得ます。

さらに市場原理に基づけば、**株価は中長期で「本**

**源的価値」に回帰する傾向があるとされることから、「賢明な投資家」はこの性質を活用し投資を行うのです**

### 【FE社の考える本源的価値と株価の関係】



※上図は例示をもって理解を深めて頂くことを目的としたイメージ図です

### Check

- 徹底した調査で市場の歪みを発見、活用する
- 米国では「安眠できるファンド\*」とも呼ばれている

\*Sleep well fund: 安心して長期間構えていられるファンドという意味

## 「本質的な価値」はどのように推定しているのですか？

私たちは**PERやPBR以外の様々な指標やデータを分析に活用します**。PERやPBRは、小規模な企業やシンプルなバランスシートを持つ企業には有効かもしれませんが、私たちが投資対象とする数千もの製品を有し、何十カ国にも事業展開する複雑な企業では、誤解を招くか、ほとんど役に立たない場合もあるのです。

FE社の競争優位性のひとつは、ポートフォリオの投資銘柄の入れ替えが少なく(売買回転率が低い)、大規模なチームだからこそ、**アナリストが深い企業分析を実施する時間を持てること**です。そしてキャッシュフローや資産の評価、市場シェアの推移などの企業の実績については、その多くを標準的なデータではなく、自前で計算しています。

このように、私たちは緻密な分析を行うことを重視し、ポートフォリオマネージャー個人の世界経済の見通しに基づいて賭けを行うような、「**将来の予**

**測」には依存しないアプローチ**を取っています。

そのデータを基に「本源的価値」を算出し、「安全マージン」のアイデアに基づいて、質の高い企業を割安な水準で買い、高くなったら売却するように、投資判断の基準が明瞭で、規律ある投資行動を取った結果、**再現性の高い投資が可能**になると考えています。



### Check

- 「将来の予測」に依存しない投資アプローチ
- 規律ある投資で再現性を高めることを目指す

資金動向、市況動向の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。

【ご注意】上記はファースト・イーグル・インベストメンツのグローバル・バリュー戦略の運用チームの投資哲学と過去の実績を示したものであり、日興レジェンド・イーグル・ファンドの将来の運用成果等を示唆または保証するものではないことに十分にご注意ください。また、グローバル・バリュー戦略はファンドが主要投資対象とするファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド(以下、マスター・ファンド)と運用チーム、運用哲学は同一ですが、マスター・ファンドでは金現物に投資しないなど銘柄選定過程の一部や費用が異なっています。

## 金にも投資！ポートフォリオの守りをさらに固めて安定感を

金や金鉱株\*の保有の利点について教えてください。

\*金鉱山の権利を保有し採掘や精錬を主な事業とする企業の株式

金への投資については、当ファンドの戦略策定当初から組入を行っています。

当戦略の立案者、ジャン・マリ・エベヤール氏は、株式の「安全マージン」を確保し、ポートフォリオを分散させたとしても、**企業を保有する限りは景気サイクルに晒される**と考えました。そこで、将来直面する可能性のあるシステミックリスク(金融システム全体のリスク)を考慮すると、**人間が作り出した景気サイクルと値動きの異なる(相関の低い)「金」が一定の価値を提供**すると考えたのです。

実際、金はボラティリティを抑制し、資本損失から保護する効果を持っています。また、金をポートフォリオに組み入れることで、インフレに対する防御も強化しています。

当ファンドでは金ETF(金価格に連動した上場投資信託)を通じて金に投資し、さらにヘッジと分散

を目的として金鉱株にも投資を行っています。

単に金を保有することは比較的簡単ですが、**利益確定のタイミングや、ポートフォリオのリスク量を個人で測りながら運用することは困難**でしょう。

一方、当ファンドでは運用のプロが、**市場の動きに応じて、これら金関連資産の比率を調整し、常にポートフォリオを最適化**しています。

金の組み入れは、経済が不安定なときにポートフォリオの価値を保つ傾向があり、私たちの投資戦略において重要な役割を果たしています。



(イメージ)



### 日本企業に対する投資の考え方の例 ～エレベータ産業～

日本企業は技術力が高く、品質の優れた製品を提供しているため、私たちの投資戦略において、非常に魅力的な選択肢のひとつとなっています。

ひとつ例を挙げますと、日本の企業については、特にエレベーター業界など、物理的に埋め込まれた製品を持つ企業に注目しています。

ビルに組み込んだエレベーターが気に入らないからと言って、別のメーカーに変更するのはかなり難しいですね。このようにエレベーターは非常に長期的なビジネスモデルを持っており、顧客は長期間にわたってそのサービスを利用します。

例えば、三菱電機のような企業は、顧客がエレ

ベーターを設置した後、長期間にわたってメンテナンスを行う必要があるため、安定した収益が見込まれます。このような企業は、経済環境の変動に対しても比較的安定しており、私たちのポートフォリオにおいて重要な位置を占めています。



上記はいかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また将来のファンドへの実質的な組入を保証するものではありません。資金動向、市況動向の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。

【ご注意】上記はファースト・イーグル・インベストメンツのグローバル・バリュー戦略の運用チームの投資哲学と過去の実績を示したものであり、日興レジェンド・イーグル・ファンドの将来の運用成果等を示唆または保証するものではないことに十分にご注意ください。また、グローバル・バリュー戦略はファンドが主要投資対象とするファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド(以下、マスター・ファンド)と運用チーム、運用哲学は同一ですが、マスター・ファンドでは金現物に投資しないなど銘柄選定過程の一部や費用が異なっています。

## ファンドの目的

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて中長期的な投資信託財産の成長をはかることを目標として運用を行います。

## ファンドの特色

- 米国有数の独立系運用会社ファーストイーグルインベストメントマネジメント社(以下、ファーストイーグルインベストメンツ)が運用する「ファーストイーグルグローバルバリュースターファンド(以下、マスターファンド)」へ、主に投資します。
  - 主としてケイマン籍の外国投資信託「マスターファンド」の受益証券と国内籍の投資信託「CAMネーブルファンド(適格機関投資家専用)」の受益証券に投資します。世界の株式等への実質的な投資は「マスターファンド」を通じて行います。
  - 「マスターファンド」の運用は、ファーストイーグルインベストメンツのグローバルバリューチームが行います。また、「CAMネーブルファンド(適格機関投資家専用)」の運用はアムンディ・ジャパン株式会社が行います。
- 主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、ドルベース<sup>\*</sup>で相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで投資信託財産の長期的な成長を目指します。
  - 世界各国(エマージング地域にも投資することがあります。)の株式を対象として、ボトムアップ方式により個別銘柄の調査を行い、PBR等の伝統的なバリュエーション分析のほか、フリーキャッシュフロー等、様々な分析を加え、財務内容を徹底的に分析します。
  - 分析の結果、十分に割安で魅力的であると判断した銘柄でポートフォリオを構築します。
  - ファンドは、特定の株価指数にとらわれない運用を行うため、ベンチマークを設定していません。
  - 「マスターファンド」において、ドルベースでのパフォーマンスを向上させるために、ドル以外の他通貨売り/ドル買いの為替取引(ドルベースでの為替ヘッジ)を行うことがあります。

<sup>\*</sup>※当資料では、「ドル」とは米ドルのことを指します。
- 「資産成長コース」、「円ヘッジコース」、「毎月決算コース」それぞれの間で無手数料でスイッチングが可能です。
  - スイッチングの際には、換金時と同様に税金がかかりますのでご注意ください。

◆資金動向、市況動向等の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。◆

## 投資リスク

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります。)に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません。**ファンドの基準価額の下落により、**損失を被り投資元本を割り込むことがあります。**ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

基準価額の変動要因としては、価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等が挙げられます。なお、基準価額の変動要因(投資リスク)は、これらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、ファンドの繰上償還、流動性リスクに関する留意事項等があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

くお申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。>

### 当資料のお取扱いについてのご注意

■当資料はアムンディ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、法令等に基づく開示資料ではありません。■当ファンドの購入のお申込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、お受取りの上、内容は投資信託説明書(交付目論見書)で必ずご確認ください。なお、投資に関する最終決定は、ご自身でご判断ください。■当資料は、弊社が信頼する情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性について弊社が保証するものではありません。また、記載されている内容は、予告なしに変更される場合があります。■当資料に記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。■投資信託は、元本および分配金が保証されている商品ではありません。■投資信託は値動きのある証券等に投資します。組入れた証券等の値下がり、それらの発行者の信用状況の悪化等の影響による基準価額の下落により損失を被ることがあります。したがって、これら運用により投資信託に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属いたします。■投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。■投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

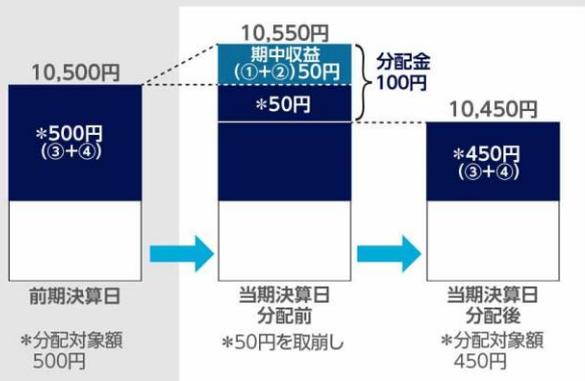
### 【投資信託で分配金が支払われるイメージ】



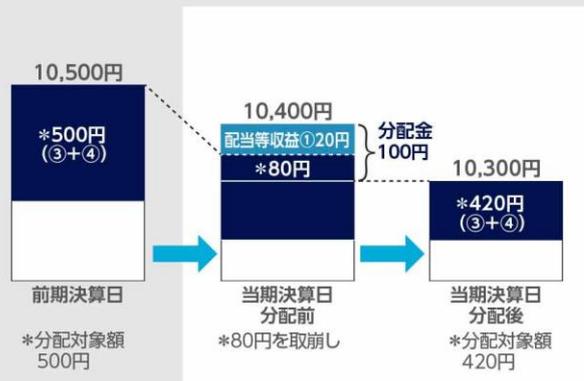
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 【計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合】

#### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算日から基準価額が下落した場合

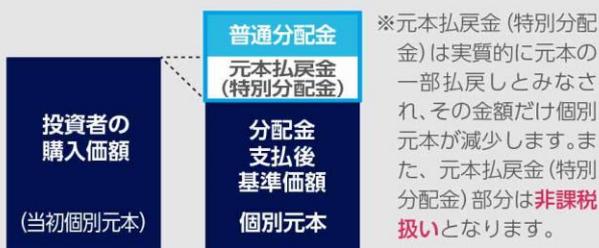


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

お申込みメモ

	資産成長コース	円ヘッジコース	毎月決算コース
購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。		
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。		
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、6営業日目からお支払いします。		
購入換金申込受付不可日	ニューヨークもしくはケイマンの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休場日の場合はスイッチングを含め、受け付けません。		
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。		
換金制限	換金の申込総額が多額な場合、投資信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、諸事情により金融商品市場等が閉鎖された場合等一定の場合に換金の制限がかかる場合があります。		
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品市場における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込受付を取消すことができます。		
信託期間	原則として、無期限とします。 (設定日: 2009年9月11日)	原則として、無期限とします。 (設定日: 2011年3月18日)	
決算日	年2回決算、原則毎年6月、12月の各5日*です。 *当該日が日本の休業日の場合は翌営業日とします。		年12回決算、原則毎月5日*です。
収益分配	原則として年2回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 「分配金再投資コース」は税引後無手数料で再投資されます。		原則として年12回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。資産成長コースおよび円ヘッジコースは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。毎月決算コースは、NISAの対象ではありません。 配当控除および益金不算入制度は適用されません。		
スイッチング	資産成長コース、円ヘッジコースおよび毎月決算コースそれぞれの間で無手数料でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、換金時と同様に税金がかかりますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問合せください。		

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。有価証券届出書作成日現在の料率上限は <b>3.3%(税抜3.0%)</b> です。
信託財産留保額	ありません。

投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	各コースの純資産総額に対し <b>年率1.232%(税抜1.120%)</b> をそれぞれ乗じて得た金額とします。 各コースが投資する投資信託証券の有価証券届出書作成日現在の運用報酬の上限額は、各投資信託証券の運用資産の純資産総額に対し、それぞれ年率0.8%および0.385%を乗じて得た金額となります。したがって、当該運用報酬を考慮した場合の <b>各コースの実質的な負担の上限は、年率2.032%(=1.232%+0.8%)</b> となります。ただし、「ファースト・イーグル・グローバル・バリュースター・マスター・ファンド」の運用報酬の最低金額は25万ドルとなっているため、純資産総額によっては年率2.032%を上回る場合があります。実際の信託報酬の合計額は投資信託証券の組入状況、運用状況によって変動します。
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。 ・有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用 ・信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用等を含みます。) ・投資信託財産に関する租税等 <b>※その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。</b>

◆ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

◆ファンドの費用については、有価証券届出書作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

委託会社、その他の関係法人	委託会社: アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第350号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 受託会社: 野村信託銀行株式会社 販売会社: 販売会社については巻末をご参照ください。
ファンドに関する照会先	<b>アムンディ・ジャパン株式会社</b> お客様サポートライン: 050-4561-2500 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス: <a href="https://www.amundi.co.jp/">https://www.amundi.co.jp/</a>

(2025年2月末現在)

販売会社一覧(業態別・五十音順)

金融商品取引業者等		登録番号	加入協会				
			日本証券業協会	一般社団法人 投資信託協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○			○	○
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○		○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○		○	○	
今村証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第3号	○		○		
SMBc日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○		○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○			○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○		○	○	○